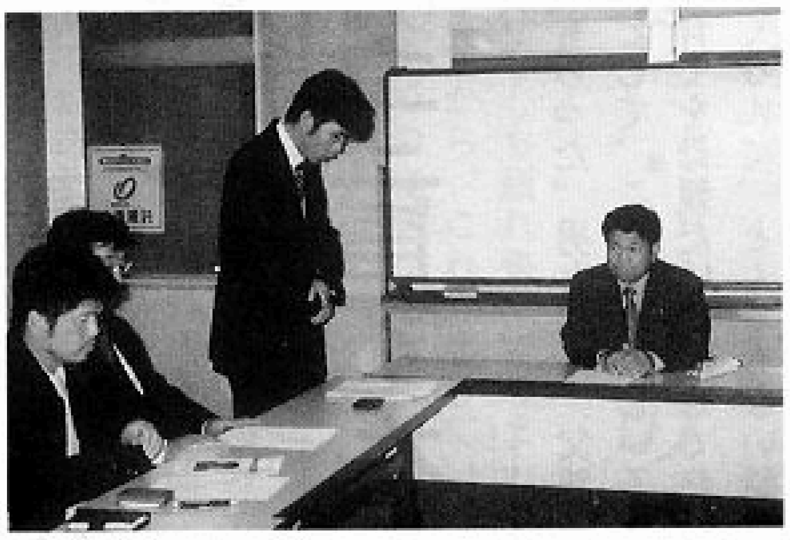
保育おおさか
平成16年7月1日　第347号
大阪府社会福祉協議会・保育部会
☎ 06－6762－9001　Fax 06－6768－2426

現状踏まえた政策に

――厚労省副大臣を招き勉強会――

平成16年6月20日（日）、衆議院議員厚生労働副大臣谷畑孝氏を招いて、大阪府八尾市にある、八尾市文化会館プリズムホール4階会議室で保育部会副部会長門谷明氏をはじめ調査研究委員会委員が勉強会を行った。この勉強会は、「現場の声を聴きたい」という谷畑副大臣のご希望もあり、開催したものである。内容は以下のとおり。

はじめに、進行役の調査研究委員会委員長森田信司氏から、「現場の声を」という趣旨でこの勉強会が開かれた経緯と、忌憚のない意見交換を行いたいという挨拶の後、門谷明副部会長が、大変貴重な機会を設けることができ、谷畑副大臣並びに関係者の方々に感謝している、とお礼の言葉とともに、この時間を有意義に使ってほしい、と委員へ要望した。



谷畑孝副大臣（右）と挨拶する森田調研委員長

一層ふえる「保育園」の役割

引き続き、谷畑副大臣から、地域の子育てニーズが高まる中、保育園の役割は一層増している。しかし、施設が老朽化し、改築が必要となっている保育園も多くある。今回、大阪府においては、21か所の老朽化した保育園の民間社会福祉施設改築整備を実現できたことは、大変有意義なことである。これからの次世代育成支援についても社会福祉法人の一層前向きな取り組みが必要とされ、期待されている。国の予算が高齢者のみならずこれからの子どもたちのためにも導入される仕組みをぜひつくっていかなければならない。それには、やはり現場からの実情に即したものにすべきであり、今日の勉強会では、次の時代を背負う会員と活発に意見交換していきたいと挨拶された。

また、府会議員伊山喜二氏（児童養護施設園長）が勉強会のことを聞き、急遽駆けつけ、激励の言葉を述べられた。

その後、三位一体の改革における公立保育園の一般財源化やこれからの3兆円の税源移譲など、国の財政が厳しい中、民間の保育園の運営費が一般財源化されるという危惧を持っているという委員からの質問に、谷畑副大臣「地方ができることは地方でするべきである。なぜなら市民を間近にみているのは市町村であり、そこに住んでいる市民に対して現状を踏まえた政策が行える。地方自治体はもっと効率よく稼働しなければならないし、自立しなければならない。しかし民間の保育園の運営費を一般財源化するというのは、また、違う問題であり、個人としても反対である」と答えられた。

（2面へ続く）

先日、所用で久方振りに上京した。空港、駅、交差点、街中に人間があふれている感じがする。日本中、いや世界中から集まった人々の形相はどこか険しく見え、皆、足早に消えて行く。「24時間戦えますか？」そんなCMのキャッチコピーが頭をよぎった。

東京の人の多さもさることながら、もう一つ感じたことがある。コンクリートジャングルの中に映える緑の多さである。東京には公園が多い。皇居を筆頭にビルと森が共存している。忙しい都会の中で時間が止まっているような空間である。昼時の公園のベンチでは、先程の険しい顔のサラリーマンがコンビニの弁当を広げている。この公園が東京砂漠で戦う企業戦士のオアシスなのだと考えたのも束の間、戦士の休戦協定は携帯電話によって破られた。携帯の普及によって便利になったのか、不便になったのか。忙しい中でも毎日きちんと給食を食べている私は幸せ者である。

（N・S）

地域と「ともに」 〝おもろい〟子育てを支援

厚労省　谷畑副大臣

活発な意見交換が交わされた

（1面からの続き）

委員から出た、「公設民営など市町村によっては、どんどん民間の力を活用し、無駄な経費を削り、なおかつ保育の質やサービスを維持、またはそれ以上の保育内容をもっている社会福祉法人の保育園に委託している市もあるが、なかなか民営化できていないところもあるのが現状である」との意見については、「社会福祉の全体事業・すべての福祉事業の展開を図るためには民間の力が必要である。厚労省副大臣としてもできる限り、地方自治体や市町村にも働きかけたい。そして民間の保育園からももっと市町村に働きかけが必要である」と答えられた。

最後に子育てについてという問いに、開口一番「子育てはおもろい」と笑顔で答えられ、自分自身が保育所に下駄履きでお子さんを送迎されたこと、奥様が保育士で共働きであることなど、「日々子どもと接し、子どもの成長を目の当りに見ることができ、親として子どもの成長ほど感動すべきものはない。大変楽しい経験をさせてもらった。男として、父親として、こんなに楽しい子育てを母親だけに任せておくなんて、とんでもない話である。

身近なニーズに即した提案を

しかし、虐待・育児ノイローゼなど、子どもに対して厳しい時代になっていることも確かである。それをいかに住みやすく、安心して成長していくことができる環境を整えるというのは、国の課題でもあり、皆さんの民間保育園の課題でもある。

今、高齢化といわれるが、私などは、まだまだ国会の中では、若者である。世間を見ても60歳70歳といえども大変パワーのあるお年寄りが増えている。そのパワーを生かすことも大事ではないか。地域の人たちと交流を図り、地域社会を巻き込んで、ともに子どもの成長を見守り、かかわり、支援していくという体制作りが必要である。これからは、皆さんの時代。どんどん子育て支援に取り組み、いろいろな地域に即した子育てニーズに対する提案を示していってほしい」と結ばれた。

初めは、少し緊張気味であった委員も、谷畑副大臣の気さくな笑顔と子育てに対する熱意で、あっという間に1時間以上過ぎてしまった。もっといろいろなことを聞きたいという委員の思いを受けて森田委員長が、これからもこのような勉強会を開催していただきたい要請に、谷畑副大臣からも快く了解を得ることができ、引き続き勉強会の開催を約束し、委員一同すぐに東京に戻らなければならないという谷畑副大臣を見送った。

（ゆめの子保育園　Y・K）

調研

今年度事業計画　給与小委員会

「給与表」自分でつくろう　基礎から学ぶ研修実施

調査研究委員会給与小委員会では、今年度事業計画の大きな柱と致しまして、研修の実施を予定しています。

研修の目的としては、現在、国の政策転換、各自治体の財政難から保育園の補助金が縮小されていく傾向にあります。その中で、自己の施設の職員構成、財務状況を把握しながら、時代に即した適切な施設運営が必要となります。給与表を自ら作成することにより、今後、安定した施設運営が行えればと考えます。

当初、給与表を提示してはどうか、という意見がありましたが、施設によって定員、職員構成が異なり、市町村によって補助金制度が異なるので、全ての施設に対応した給与表は出来ないという結果となりました。

それよりも、自分の施設が置かれている状況を細やかに理解し、給与表を作成することにより、適切な運営か出来るのではないか、という結論に至りました。

研修内容と致しましては、先に述べました「自分で給与表を作る」を大きなテーマとして行う予定です。給与表を作成するには考え方など基本的なことから、様々な金額の設定の細かなところまで理解しなければなりませんが、この機会に自己の施設を見直す上でも、多くの方に参加していただきたいと思います。

また、以前に給与小委員会で作成した他業種との賃金比較表なども参考資料として提示し、社会福祉法人の給与水準が、世間一般と比較するなどの位置に当たるのか、なども参考になるかと思います。

なお、講師や日時、場所については現在調整中ですが、出来るだけ早くに決定し、お知らせしたいと思います。

（松の木保育園　H・M）

子どもたちの「育ち」大切に

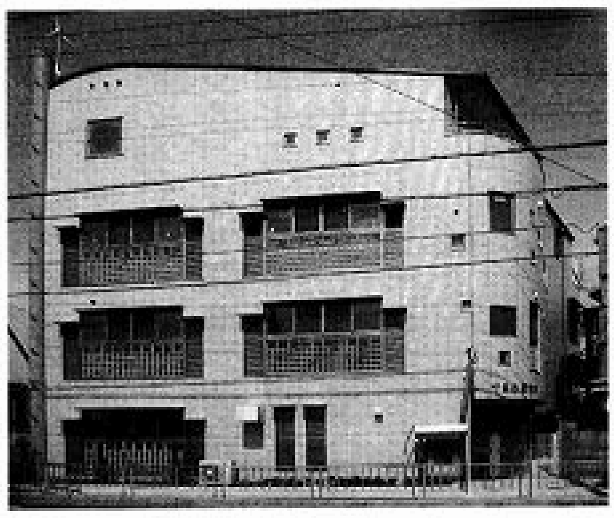
老朽改築を終えて

摂津市　千里丘愛育園

平成15年より8か月をかけ、老朽化した旧園舎2棟を解体、鉄骨4階建延1190㎡の新園舎を建設しました。

内部は日本の木を多用したやさしくて暖かい部屋を作りました。また、子どもたちの健康面を特に重視し、むくの木材、活性炭、有機的な壁材を用い、有害物質を発生する材料は使用していません。

太陽発光電、風力発電装置を備え、子どもたちに興味を持たせるように視覚的に分かりやすい表示装置も設けてあります。



また、子どもの育成を考え自動扉、水道の自動栓など便利な物でもあえて子どもたちにとってどうあるべきかを考えて意図して用いていません。

建物全体の設計においては、建物の中央部に玄関入口、ホール、階段、便所等の共用部を設計し、その回りに保育室を配して効率のよい設計としております。

旧園舎での保育を継続しながらの新園舎建設となり、安全面、施工面など様々な制約のもとでの建設でした。建築期間中、園庭がなく園児の遊び場確保に苦慮しましたが、近隣の公園を利用したり、隣接小学校の協力を得、対応できました。

建築現場が隣接していることから、安全面に最も気を使いました。通園出入り口では職員を安全誘導に配置、建設手順も安全性最重視で手順変更もしました。

保護者の理解のもと、職員、設計監理者、施工業者の努力で2月には卒園児にも新園舎に入ってもらえました。

法人発祥の地の園舎解体で感概ひとしおですが、現在は広くなった新園舎のもとで園児たちは伸び伸びと育ち、新しい歴史を刻みつつあります。

落語医者の保育うだうだ話
2・6・2の法則

■前回は「10ダッコのすすめ」また前々回は「子どもの長所を10見つけよう」と、10をテーマにした話題を続けてきましたが、今回は、その10を2と6と2に分割した「2・6・2の法則」の話です。

■これは、どういう意味かといいますと、世の中の多くのことは、全体を10とすると、いいこと、楽しいことなどマルの部分が2、そして反対に、よくないこと、面白くないことなどペケの部分が2、そして残りの6の部分は良くもなく、悪くもなく、当たり前のこととして、ほとんど注目せずに、いわば無意識に自動的に、われわれは生きているということなのです。

具体的な例をあげれば、昨日のわたしの生活では、講演がまずまず好評だったこと、お見舞いにいった友人が比較的元気だったことなどが、マルのふたつに当たると思います。

反対にペケのふたつは、阪神がまた負けたこと、施設の冷暖房の器械が寿命で、その取り替え費用が予想以上の金額だと知らされたことなどがありました。

もちろん、これらのマル、ペケ以外に、わたしは三度のゴハンも食べましたし、保育園でも病院でもそれなりに働きました。しかし、そのことは、当たり前のことであり、別に記憶に残るほどのことでもなく、いわばノーカウントなのです。

■確かに、毎日毎日、マルが2、ペケが2とは限りませんが、少なくとも、われわれは、日常生活の多くのことをあまり考えずにノーカウントとして、軽く流していることが予想以上に多いものです。

また、そうしなければ、体も心も疲れ果ててしまいますから、これも生きていく上での立派な知恵なのかも知れません。

しかし考えてみれば、この無意識で働いている部分こそが、われわれ自身が健康で社会に適応している証拠でもあるのですから、本来は、このことにもっと感謝したり大切にしなければならないことですし、時には、このことにもっと自信を持っていいのではないかと思うのです。

■これと同じで、お母さんたちは、子どもが毎日、保育園に休まずに通園していることや、そこで、友だちと元気に遊んでいること、パクパクと食事を食べていることなどは、ノーカウントの部分として、ことさら話題にすることがないのが普通です。

しかし、発達途上人である子どもたちにとっては、われわれ大人と違い、このノーカウントのように思える日常的な部分こそが、現在までの成長・発達が順調なものであったことの証しであると同時に、今後の飛躍の基礎として重要な意味を持つのです。

ですから、時には、日ごろはノーカウントとして、気にも止めなかった子どものあたりまえの成長を褒めてあげたり、毎日元気で保育園へ行ってくれることを感謝したりして、親子ともどもで、子どもの成長・発達を確認することも必要ではないかと思うのです。

そんなことをするために、誕生日があり、七五三があり、子どもの日があり、正月があり、クリスマスがあり、新学期があるのではないかと、わたしは考えているのです。

（英）

保育部会常任委員会報告

6月1日　午後2時～

○大阪府からの報告
「府民意識調査」について
児童虐待防止キャンペーンについて
○近畿ブロック保育研究集会について
7月12日(月)、13日(火) 京都にて開催
○保育部会のホームページについて
○メールの活用について

ブロックだより

府・厚労省 施策を語る
総会と研修会
―北大阪ブロック―

5月28日、北大阪ブロックの総会並びに研修会が大阪社会福祉指導センターで行われた。

研修会は、交野市・寝屋川市・大東市・門真市・守口市・枚方市の保育行政担当者の参加もあり、熱気につつまれたものだった。

講師は、まず、大阪府健康福祉部児童家庭室施設課施設整備グループ課長補佐の新生隆信氏で、主に保育所整備の大阪府方針をお話しいただいた。

それによると①定員増を伴った民老改築等で、入所児童枠の拡大につながる整備②低年齢の待機児童が多いため低年齢児受け入れに必要な整備③保育所の多機能化（一時保育室等）の推進を図る整備。この３つの整備を優先し、17年度当初待機児ゼロの実現を目指すということであった。

続いて厚生労働省雇用均等児童家庭局保育課課長補佐の西川隆久氏に、一般財源化された公立保育所の運営費の現状や総合施設についてのお話をいただいた。

総合施設は、今の子育ての状況をしっかり把握し、いったい何が求められているのかという視点で議論・検討されているということであった。

その後、質疑応答も活発に行われ、時間の過ぎるのがあっという間であった。

（ギンガ保育園　K・T）

保育園をたずねて 317
高槻市 藤の里保育園

高槻市の閑静な住宅街の中にあるすばらしい環境の中、今年31年目を迎えられる保育園で、保育目標は「心もからだも元気な子」保育方針は、「友だちとの関わりの中で思いやりの心を持ち、自然に触れる中で命の大切さを感じる」を掲げられている。

主な活動として、①なかよし活動…異年齢児保育（3歳～5歳）②マイランチデー…月1回自宅から空のお弁当箱を持ってきて、その日のランチメニューを自分たちで好きなように詰めて、園内の好きな場所に行って給食を食べる（1歳～5歳）③ボランティアグループの協力を得て、一緒に彫刻・絵画・陶芸などの創作活動を実施④地域交流…保護者への子育て支援・スポーツ大会・ゲーム遊び等を通じて地域との交流を深められています。

人と人とが、人と自然が、人と宇宙がこだましあい、響きあい、丸ごと認め合うという園長先生の思いが伝わってきました。

工夫を凝らし楽しい行事に
―河内ブロック―
保育士研修会

5月27日（木）東大阪市社会福祉協議会で『行事を楽しむテクニック』をテーマに私立保育会保育士研修会が開催された。

各園での夏期保育の取り組みの他に夏へ向けてのあそびやプール開き・夕涼み会などの行事を事例発表していただきました。夏へ向けてのあそび・シャボン玉あそびの事例発表では、大きなシャボン玉を作るために液の手作りから始め、道具も身近にある物から使い、シャボン玉作りに挑戦。何度も挑戦し失敗も経験することで、今では、長くて大きな、人が入れるシャボン玉も作れるようになったそうです。

スライド映像で子どもたちがシャボン玉遊びを行っている様子を見せていただき、とても活き活きと笑顔いっぱいで楽しんでいる姿を見て、子どもたちのために日々いろいろなことを考え努力して楽しい行事を作っていく必要があると感じました。

事例発表の後には、グループ討議を行いました。

討議では、各園でどのような行事を行い、行事の良い所、また最近では、母子家庭が増えてきている中、母の日や父の日をどのように行っているか？など討議し合いました。

いろいろな行事がある中で、園での特長を活かし、保育士が工夫を凝らし、子どもたちが楽しめる行事を考えていくことが大切だと感じました。

（ひしの美東保育園　S・N）

あの人この人

私たち大阪府保育部会傘下には保育士会と調査研究委員会がある。それぞれ歴史は古く結成30年になろうとするほどだ。

保育士会は武内会長のもと独自の事業を活発に展開している。一方調査研究委員会は森田委員長を筆頭に、育児相談SIDS小委員会16人（長岡リーダー）、給与小委員会17人（門谷リーダー）、保育データ小委員会17人（大西リーダー）、資料集・情報処理小委員会10人（端野リーダー）と4つの小委員会を擁し、それぞれが委員会名のテーマをもって活躍している。この調査研究委員会は、あるときは保育部会の手足耳となり、またあるときはブレーンとなって活躍していることは、今も昔も変わらないが、ただ変わったところは構成メンバーの若返りと二世が多くなったことだ。

発行所
大阪市中央区中寺1丁目1－54
大阪府社会福祉協議会
保育部会
TEL 6762－9001
発行人
高岡國士
編集人
水﨑勝